



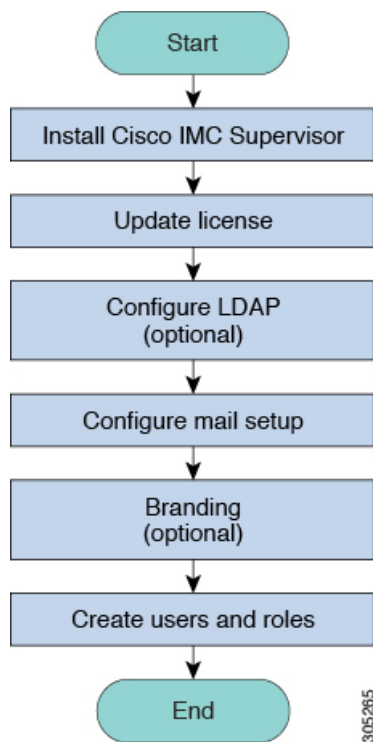
使用する前に

この章は、次の内容で構成されています。

- [概要, 1 ページ](#)
- [Cisco IMC Supervisor の起動, 2 ページ](#)
- [ライセンス タスク, 3 ページ](#)
- [認証および LDAP 統合, 4 ページ](#)
- [LDAP の設定, 5 ページ](#)
- [SCP ユーザの設定, 17 ページ](#)
- [\[Mail Setup\] の設定, 17 ページ](#)
- [ブランド表示, 18 ページ](#)
- [\[User Interface Settings\] の設定, 19 ページ](#)

概要

次の図は、Cisco IMC Supervisor を使用した環境設定のワークフローを示しています。



Cisco IMC Supervisor の起動

Cisco IMC Supervisor にログインするには、次の手順を実行します。

はじめる前に

- Cisco IMC Supervisor が正常にインストールされたことを確認します。
- Cisco IMC Supervisor のインストール中に IP アドレスを確実に設定します。

手順

ブラウザの URL に Cisco IMC Supervisor の IP アドレスを入力して、次のクレデンシャルでログインします。

- [User Name] : admin
- [Password] : admin

ライセンス タスク

[License] メニューを使用して、ライセンスの詳細とリソースの使用率を確認できます。次のライセンス手順は、[Administration] > [License] メニューから使用できます。

タブ	説明
License Keys	このタブには、Cisco IMC Supervisor で使用されるライセンスの詳細が表示されます。このタブを使用してライセンスをアップグレードすることもできます。新しいバージョンの Cisco IMC Supervisor が使用可能な場合は、ライセンスをアップグレードできます。
License Utilization	このタブには、使用中のライセンスおよび各ライセンスの詳細（ライセンスの制限、使用可能期間、ステータス、備考など）が表示されます。ライセンスの監査もこのページから実行できます。
Resource Usage Data	このタブには、使用される各種リソースの詳細が表示されます。

ライセンスの更新

Cisco IMC Supervisor の使用を始める前にライセンスを更新するには、次の手順を実行する必要があります。有効なライセンスのリストについては、[ライセンスについて](#)を参照してください。ライセンス キーを生成し、製品アクセス キーを要求し、登録する必要があります。Cisco IMC Supervisor をインストール後、ライセンスが検証され、Cisco IMC Supervisor の使用を開始できます。

はじめる前に

ライセンス ファイルを圧縮ファイルで受け取った場合は、展開して .lic ファイルをローカル マシンに保存します。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで、[Administration] > [License] を選択します。
 - ステップ 2 [License Keys] タブを選択します。
 - ステップ 3 [Update License] をクリックします。
 - ステップ 4 [Update License] ダイアログボックスで、次のいずれかの操作を実行します。

- .lic ファイルをアップロードするには、[Browse] をクリックして .lic ファイルを探して選択し、[Upload] をクリックします。
- ライセンス キーの場合は、[Enter License Text] チェックボックスをオンにし、ライセンス キーのみをコピーして [License Text] フィールドに貼り付けます。ライセンス キーは通常、ファイルの先頭の Key -> の後にあります。
ライセンス ファイルのフルテキストをコピーして [License Text] フィールドに貼り付けることもできます。

ステップ 5 [Submit] をクリックします。
ライセンス ファイルが処理されて、更新の成功を確認するメッセージが表示されます。

ライセンス監査の実行

ライセンス監査を実行するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

ライセンスを更新する必要があります。ライセンスをアップグレードするには、[ライセンスの更新](#)、(3 ページ) を参照してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[Administration] > [License] を選択します。
 - ステップ 2** [License Utilization] タブをクリックします。
 - ステップ 3** [Run License Audit] をクリックします。
 - ステップ 4** [ライセンス監査の実行] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。
このプロセスは完了するまでに時間がかかります。
 - ステップ 5** 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
-

認証および LDAP 統合

LDAP のフォールバックを選択して、認証を設定できます。また、フォールバックを行わない VeriSign ID 保護 (VID) 認証を設定できます。

名前	説明
[Local First, fallback to LDAP]	認証は最初にローカル サーバで実行されます (Cisco IMC Supervisor)。ユーザがローカル サーバにない場合、LDAP サーバが確認されます。
[VeriSign Identity Protection]	VIP 認証サービス (2 要素認証) が有効化されます。

認証の環境設定

ログイン認証タイプを変更する場合は、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** メニュー バーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2** [Authentication Preferences] タブを選択します。
- ステップ 3** [Authentication Preferences] ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択できます。
- [Local First, fallback to LDAP]

このオプションを選択する場合は、LDAP サーバを設定する必要があります。詳細については、[LDAP サーバの設定](#)、(8 ページ) を参照してください。
 - [Verisign Identity Protection] : このオプションを選択した場合は、次のステップに進みます。
- ステップ 4** [Verisign Identity Protection] を選択した場合は、次の手順を実行します。
- a) VIP 証明書をアップロードするには、[Browse] をクリックします。
証明書を見つけて選択し、[Upload] をクリックします。
 - b) [Password] を入力します。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。
-

LDAP の設定

Cisco IMC Supervisor での LDAP の設定には、LDAP 設定の追加と LDAP サーバの設定が含まれます。また、LDAP の接続をテストし、LDAP の概要情報を表示できます。次の項では、これらの手順の実行方法について説明します。

LDAP 統合の規則と制限事項

ユーザの同期規則

- 選択した LDAP ユーザが Cisco IMC Supervisor にすでに存在しており、ソースのタイプが [Local] の場合、そのユーザは同期中に無視されます。
- 選択した LDAP ユーザが Cisco IMC Supervisor にすでに存在しており、ソースのタイプが [External] の場合、そのユーザの名前、説明、電子メール、および他の属性が更新されて使用できるようになります。
- ユーザアカウントが2つの異なる LDAP ディレクトリに作成されると、最初に同期された LDAP ディレクトリのユーザの詳細が表示されます。もう一方の LDAP ディレクトリからのユーザの詳細は表示されません。
- これらの LDAP ディレクトリが同期された後、LDAP 外部ユーザは、完全なドメイン名と共にユーザ名を指定して Cisco IMC Supervisor にログインする必要があります。たとえば、vxedomain.cisco.com\username など。

ユーザ同期の制限事項

- あるユーザが複数のグループメンバーシップを持っていても、そのユーザは Cisco IMC Supervisor では単一のグループメンバーシップを持つこととなります。



(注) LDAP 同期プロセスの後には、ユーザが正しいグループに割り当てられていることを確認してください。

LDAP 設定の追加

LDAP 設定を追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2 [LDAP Integration] タブを選択します。
- ステップ 3 LDAP 設定を追加するには [+] をクリックします。
- ステップ 4 [Add LDAP Configurations] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[Account Name] フィールド	LDAP アカウント名。

フィールド	説明
[Server Type] ドロップダウン リスト	Microsoft Active Directory または Open LDAP を選択します。
[Server] フィールド	サーバのホスト名または IP アドレス。
[Enable SSL] チェックボックス	LDAP サーバへのセキュアな接続をイネーブルにします。
[Port] フィールド	ポート番号。 SSL の場合は 636 に、非セキュア モードの場合は 389 に自動的に設定されます。
[Domain Name] フィールド	LDAP ユーザのドメイン名。
[Username] フィールド	LDAP ユーザの名前を入力します。
[Password] フィールド	ユーザ名に関連付けられているパスワードを入力します。
[Synchronization Frequency] ドロップダウン リスト	LDAP サーバが同期される頻度（時間）を選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 • 4 • 12 • 24

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 [LDAP Search Base] ダイアログボックスで [Select] をクリックして、表示されるテーブルから、OU に基づいてユーザを検索するための検索条件を選択します。

(注) Cisco IMC Supervisor ではユーザのみがサポートされ、グループはサポートされません。[OU] に基づく検索条件は必須ではありません（ユーザとグループの両方が含まれる可能性があるためです）。システム同期更新タスクが 24 時間ごとに実行され、検索基準に基づいて LDAP ユーザが同期更新されます。このため、ユーザ情報のみの手動同期を実行する必要があります。LDAP の手動同期を実行するには、[LDAP の手動同期のリンク](#)、[（13 ページ）](#) を参照してください。

ステップ 7 [Select] ダイアログボックスで [Select] をクリックします。選択済みの検索条件が、[Search Base] フィールドの横に表示されます。

- ステップ 8** [LDAP Search Base] ダイアログボックスで [Next] をクリックします。
- ステップ 9** [LDAP User Role Filter] ダイアログボックスでユーザ ロール フィルタ テーブルにエントリを追加するには、[+] をクリックします。
- ステップ 10** [Add Entry to User Role Filters] ダイアログボックスで、ユーザ ロールの詳細を入力します。
- ステップ 11** [Submit] をクリックします。
- ステップ 12** [Submit Result] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
これらのフィルタを編集または削除することができます。また、上/下矢印を使ってフィルタを移動すると、優先順位を設定できます。
- ステップ 13** [LDAP User Role Filter] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。
- ステップ 14** [Submit Result] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
-

LDAP サーバの設定

Cisco IMC Supervisor では複数の LDAP サーバとアカウントを設定できます。LDAP アカウントを追加するときに、次の項目を指定できます。

- 検索ベース DN に含まれる組織単位 (OU)。
- LDAP アカウントがシステムと自動的に同期される頻度。
- 結果を絞り込み、グループおよびユーザに LDAP ロールフィルタを指定する、グループフィルタまたはユーザフィルタ。

LDAP サーバアカウントが追加されると直ちにこのアカウントのシステムタスクが自動的に作成され、データ同期を即時に開始します。LDAP サーバアカウントのすべてのユーザとグループがシステムに追加されます。デフォルトでは、LDAP アカウントのすべてのユーザに対して、自動的にサービスエンドユーザプロファイルが割り当てられます。LDAP サーバを設定するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

認証設定を [Local First, fallback to LDAP] に設定しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2** [LDAP Integration] タブを選択します。
- ステップ 3** [Add] をクリックします。
- ステップ 4** [LDAP Server Configuration] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Account Name] フィールド	アカウント名。 この名前は一意である必要があります。
[Server Type] フィールド	LDAP サーバのタイプ。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • OpenLDAP • MSAD - Microsoft Active Directory
[Server] フィールド	LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名。
[Enable SSL] チェックボックス	LDAP サーバへのセキュアな接続をイネーブにします。
[Port] フィールド	ポート番号。 SSL の場合は 636 に、非セキュアモードの場合は 389 に自動的に設定されます。
[Domain Name] フィールド	ドメイン名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、このドメイン名が、ユーザ名で指定されたドメインと一致している必要があります。 重要 完全なドメイン名を指定する必要があります。たとえば、vxedomain.com などは、 です。
[User Name] フィールド	ユーザ名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定してください。 <code>uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com</code> ここに指定する <code>ou</code> は、ディレクトリ階層でその他のすべてのユーザが配置される場所です。
[Password] フィールド	ユーザのパスワード。

名前	説明
[Synchronization Frequency] ドロップダウン リスト	LDAP サーバが同期される頻度（時間）を選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 • 4 • 12 • 24

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 [LDAP Search Base] ペインで、[Select] をクリックして LDAP 検索ベースのエントリを指定し、[Select] をクリックします。
Cisco IMC Supervisor で使用可能なすべての組織単位（OU）がこのリストに表示されます。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 [Configure User and Group Filters] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
User Filters	[+] 記号をクリックして、システムと同期する必要がある特定のユーザを選択します。 選択したユーザが属するグループがすべて取得され、システムに追加されます。
Group Filters	[+] 記号をクリックして、システムと同期する必要があるグループを選択します。 選択したグループフィルタに属するユーザがすべて取得され、システムに追加されます。ただし、選択したグループのユーザが他のグループにも属している場合は、このフィールドで選択されていない限り、それらのグループは取得されず、システムへの追加もされません。
[Add Entry to User Filters] または [Add Entry to Group Filters] ダイアログボックス（前の選択に応じて表示されます）	
[Attribute Name] ドロップダウン リスト	[Group Name] または [User Name] を選択します。

名前	説明
[Operator] ドロップダウン リスト	グループおよびユーザを取得する際に適用するフィルタを選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Equals to • Starts with
[Attribute Value] フィールド	検索に含めるキーワードまたは値を指定します。

フィルタに基づいて、グループまたはユーザが取得されます。

ステップ 9 [Next] をクリックします。

ステップ 10 [LDAP User Role Filter] ペインで、[+] 記号をクリックして、ユーザロールフィルタを追加します。

ステップ 11 [Add Entry to User Role Filters] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Attribute Name] フィールド	属性の名前。これには、グループ名を指定できます。
[Operator] ドロップダウン リスト	次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Equal to • Starts with
[Attribute Value] フィールド	このフィールドで値を指定します [Operator] フィールドと [Attribute Value] フィールドの値に一致するすべてのユーザが、[Map User Role] ドロップダウンリストで選択するユーザロールに割り当てられます。
[Map User Role] ドロップダウンリスト	ユーザのマップ先とするユーザロールを選択します。デフォルトで使用可能だったロールを選択するか、またはシステムで作成されたロールを選択できます。 以下は、Cisco IMC Supervisor でデフォルトで使用可能なロールです。 <ul style="list-style-type: none"> • Group Admin • Operator • System Admin

ステップ 12 [Submit] をクリックします。

ステップ 13 [OK] をクリックします。
ユーザ ロール フィルタが [User Role Filters] テーブルに追加されます。

(注) 複数のユーザ ロール フィルタが指定されている場合は、最初の行に指定したフィルタが処理されます。

[Login Users] タブでユーザのユーザ ロールを手動で更新すると、そのユーザには、グループをマップしたユーザ ロールが適用されなくなります。

次の作業

LDAP に認証設定を設定していない場合は、認証設定を変更するように求めるプロンプトが表示されます。認証設定の変更の詳細については、[認証の環境設定](#)、(5 ページ) を参照してください。

LDAP サーバのサマリー情報の表示

LDAP サーバの概要情報を表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 メニュー バーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。

ステップ 2 [LDAP Integration] タブを選択します。

ステップ 3 表から LDAP アカウント名を選択します。

ステップ 4 [View] をクリックします。

[View LDAP Account Information] ダイアログボックスに、LDAP アカウントのサマリー情報が表示されます。

ステップ 5 [Close] をクリックします。

LDAP サーバの接続のテスト

LDAP 接続をテストするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
 - ステップ 2 [LDAP Integration] タブを選択します。
 - ステップ 3 テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。
 - ステップ 4 [Test Connection] をクリックします。
接続のステータスが表示されます。
 - ステップ 5 [Test LDAP Connectivity] ダイアログボックスで、[Close] をクリックします。
-

ベース DN の検索

ベース DN を検索するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
 - ステップ 2 [LDAP Integration] タブをクリックして、LDAP アカウントを選択します。
 - ステップ 3 [Search BaseDN] をクリックします。
(注) Cisco IMC Supervisor ではユーザのみがサポートされ、グループはサポートされません。
[OU] に基づく検索条件は必須ではありません (ユーザとグループの両方が含まれる可能性があるためです)。
 - ステップ 4 [LDAP Search Base] ダイアログボックスの [Select] をクリックします。
 - ステップ 5 1 人以上のユーザを選択して、[Select] ダイアログボックスの [Select] をクリックします。
 - ステップ 6 [LDAP Search Base] ダイアログボックスの [Submit] をクリックします。
 - ステップ 7 [Submit Result] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
-

LDAP の手動同期のリクエスト

LDAP の手動同期のリクエストでは、LDAP ユーザおよびグループを取得するための基本検索条件または詳細検索条件を指定できます。LDAP の手動同期を行うには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2 [LDAP Integration] タブをクリックして、LDAP アカウントを選択します。
- ステップ 3 [Request Manual LDAP Sync] をクリックします。
- ステップ 4 [Manual LDAP Sync] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Basic Search] チェックボックス	組織単位で基本検索をイネーブルにします。
[Advanced Search] チェックボックス	詳細検索をイネーブルにします。

(注) いずれかの検索オプションを使用する時点ですでにユーザおよびグループが Cisco IMC Supervisor に存在している場合、検索を実行しても同じユーザとグループは読み込まれません。

- ステップ 5 基本検索の場合は、[Select] をクリックして検索ベースを指定します。
- ステップ 6 検索ベース DN を選択し、[Select] をクリックして、ステップ 9 に進みます。
- ステップ 7 詳細検索の場合は、[Advanced Filtering Options] ペインで、[User Filters] と [Group Filters] の属性名を追加または編集します。
- ステップ 8 [Next] をクリックします。
- ステップ 9 [Select Users and Groups] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[LDAP Groups] フィールド	ユーザが同期する必要がある LDAP グループ。
[LDAP Users] フィールド	同期する必要がある LDAP ユーザ。

- ステップ 10 [Submit] をクリックします。
- ステップ 11 [Submit Result] ダイアログボックスで、[OK] をクリックし、LDAP サーバを同期します。メニューバーから [Administration] > [Users and Groups] を選択し、[Users] タブをクリックすると、同期されたユーザが表示されます。

LDAP 同期結果の表示

LDAP の同期結果を表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2 [LDAP Integration] タブをクリックして、LDAP アカウントを選択します。
- ステップ 3 [Results] をクリックします。
- ステップ 4 [License Status] タブをクリックして、Cisco IMC Supervisor ライセンスの有効性を確認します。
- ステップ 5 [LDAP Integration] タブをクリックして、LDAP 同期の開始および終了の時刻、同期のステータス、ステータスの詳細メッセージなどの詳細を確認します。

LDAP サーバの詳細の変更

設定済みの LDAP サーバに対し変更できるのは次の詳細情報のみです。

- ポート番号と SSL 設定
- ユーザ名とパスワード
- 検索ベース DN の選択内容

LDAP サーバの詳細を変更するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2 [LDAP Integration] タブをクリックして、LDAP アカウントを選択します。
- ステップ 3 [Modify] をクリックします。
- ステップ 4 [Modify LDAP Server Configuration] ダイアログボックスで、次のフィールドを編集します。

名前	説明
[Enable SSL] チェックボックス	LDAP サーバへのセキュアな接続をイネーブルにします。
[Port] フィールド	ポート番号。 SSL の場合は 636 に、非セキュアモードの場合は 389 に自動的に設定されます。

名前	説明
[User Name] フィールド	<p>ユーザ名。</p> <p>LDAPディレクトリのタイプとして[OpenLDAP]を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定してください。</p> <p>uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com</p> <p>ここに指定する ou は、ディレクトリ階層でその他のすべてのユーザが配置される場所です。</p>
[Password] フィールド	ユーザのパスワード。

- ステップ 5** [Next] をクリックします。
- ステップ 6** [LDAP Search Base] ダイアログボックスで、[Select] をクリックして LDAP 検索ベースのエントリを指定し、[Select] をクリックします。
- ステップ 7** [Next] をクリックします。
- ステップ 8** [Configure User and Group Filters] ペインで、[User Filters] および [Group Filters] テーブルで必要な属性を選択して編集します。
- ステップ 9** [Next] をクリックします。
- ステップ 10** [LDAP User Role Filter] ダイアログボックスで、テーブルエントリの追加/編集/削除操作をクリックするか、上矢印と下矢印を使ってエントリを移動します。
- ステップ 11** それぞれのダイアログボックスで [Submit] をクリックします。
- ステップ 12** [Submit Result] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- ステップ 13** [LDAP User Role Filter] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。
- ステップ 14** [Submit Result] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

LDAP サーバ情報の削除

LDAP サーバのアカウントを削除すると、検索基準、BaseDN および対象の LDAP サーバに関するシステム エントリのみが削除されます。LDAP サーバに割り当てられているユーザは削除されません。LDAP サーバ情報を削除するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2 [LDAP Integration] タブを選択します。
- ステップ 3 テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。
- ステップ 4 [Delete] をクリックします。
- ステップ 5 確認のダイアログボックスで [Delete] をクリックします。
- ステップ 6 [OK] をクリックします。
これにより、Cisco IMC Supervisor 内の LDAP アカウントの削除が開始されます。LDAP アカウント内のユーザ数によって、この削除プロセスが完了するまでに数分かかる場合があります。この間、LDAP アカウントが Cisco IMC Supervisor に表示され続ける場合があります。[Refresh] をクリックして、アカウントが削除されたことを確認します。

SCP ユーザの設定

SCP ユーザは、サーバ診断やテクニカルサポートのアップロード操作で、SCP プロトコルを使用して Cisco IMC Supervisor アプライアンスにファイルを転送する際に使用されます。scp ユーザアカウントは、Cisco IMC Supervisor UI または shelladmin へのログインに使用することはできません。scp ユーザパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2 [SCP User Configuration] タブをクリックします。
- ステップ 3 [Password] フィールドに scp ユーザパスワードを入力します。
- ステップ 4 [Submit] をクリックします。
- ステップ 5 [Submit Result] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

[Mail Setup] の設定

Cisco IMC Supervisor から送信されるすべての電子メールに SMTP サーバが必要です。障害のアラートなどの Cisco IMC Supervisor によって生成される電子メールは、次の手順を使用して設定した電子メール設定に送信されます。電子メールアラートのルールを追加する方法の詳細については、[サーバ障害に関する電子メールアラートルールの追加](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 メニューバーで、[Administration] > [System] を選択します。

ステップ 2 [Mail Setup] タブをクリックします。

ステップ 3 [Mail Setup] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
Outgoing Email Server (SMTP)	サーバの IP アドレスまたはドメイン名。
Outgoing SMTP Port	SMTP サーバのポート番号。
Outgoing SMTP User	(オプション) SMTP 認証で使用する送信 SMTP ユーザ ID。
Outgoing SMTP Password	(オプション) SMTP 認証で使用する送信 SMTP ユーザ ID のパスワード。
Outgoing Email Sender Email Address	Cisco IMC Supervisor によって生成される送信電子メールの送信者アドレス。
Server IP Address	Cisco IMC Supervisor を実行しているサーバの IP アドレス。
[Send Test Email] チェックボックス	設定されたアドレスにテストメールを送信するには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [Save] をクリックします。

ステップ 5 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

ブランド表示

ログインページは、ドメイン名に関連付けられているロゴを示すように設定できます。エンドユーザがそのドメインからログインすると、ログインページでそのカスタムロゴが表示されます。ロゴの最適なイメージのサイズは幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセルで、余白に 255 ピクセルが割り当てられています。シスコは、より高速なダウンロードを実現するために、イメージサイズを小さくすることを推奨しています。

新しいログインブランディングページの追加

新しいログインブランディングページを追加する場合は、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** メニューバーから、[Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2** [Login Page Branding] タブをクリックします。
- ステップ 3** [Add] をクリックします。
- ステップ 4** [Domain Branding] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

フィールド	説明
[Domain Name] フィールド	ブランディング用のドメイン名。たとえば、imcs.xxxx.com のようになります。 (注) ローカルマシンでドメイン名を作成するには、C:\Windows\System32\drivers\etcに移動して、ホストファイルで <ipaddress> と <domainname> を指定します。たとえば、10.10.10.10 imcs.xxxx.com のようになります。
[Custom Domain Logo] チェックボックス	(オプション) ロゴを追加する場合は、このチェックボックスをオンにして、以下を実行します。 1 [Browse] をクリックします。 2 ロゴに移動してファイルを選択します。 3 [Open] をクリックします。

- ステップ 5** [Submit] をクリックします。
- ステップ 6** 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
(注) 作成したカスタマイズ済みのログイン ページを編集、削除、複製できません。

[User Interface Settings] の設定

この手順を使用して、Cisco IMC Supervisor アプリケーションをカスタマイズすることができます。要件に基づいて、アプリケーションヘッダー、管理者およびエンドユーザのポータルを変更できます。ロゴ、アプリケーション名、ログアウトなどのリンクを含むヘッダーも非表示にできます。

手順

ステップ 1 メニューバーで、[Administration] > [User Interface Settings] を選択します。

ステップ 2 [User Interface Settings] ウィンドウで、次の手順を実行します。

フィールド	説明
[Hide Entire Header] チェックボックス	このチェックボックスを使用して、ヘッダーを有効または無効にします。
[Product Name] フィールド	ヘッダーのメインタイトル。
[Product Name 2nd Line] フィールド	ヘッダーのサブタイトル。
[Enable About Dialog] チェックボックス	このチェックボックスを使用して、Cisco IMC Supervisor の [About] ダイアログボックスを有効または無効にします。
管理者ポータル	
[Custom Link 1 Label] フィールド	ヘッダーバーのテキストを変更するには、このフィールドを設定します。
[Custom Link 1 URL] フィールド	カスタム リンク 1 ラベルの URL を設定できます。
[Custom Link 2 Label] フィールド	ヘッダーバーのテキストを変更するには、このフィールドを設定します。
[Custom Link 2 URL] フィールド	カスタム リンク 2 ラベルの URL を設定できます。
エンド ユーザ ポータル	
[Custom Link 1 Label] フィールド	ヘッダーバーのテキストを変更するには、このフィールドを設定します。
[Custom Link 1 URL] フィールド	カスタム リンク 1 ラベルの URL を設定できます。
[Custom Link 2 Label] フィールド	ヘッダーバーのテキストを変更するには、このフィールドを設定します。
[Custom Link 2 URL] フィールド	カスタム リンク 2 ラベルの URL を設定できます。

ステップ 3 [Save] をクリックします。

ステップ 4 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

